

《資料》

奈良町触（八）

——奈良町奉行所与力玉井家文書による——

牧 英 正

廳中漫録二二

和州志 触事一（承前）

鳴物音曲普請等停止之部

（注）「鳴物……」以下は、もと別帳であったのかも知れないが、現在製本された原本に従う。（牧）

〔三九〇〕

寛文二十二年二月廿七日

越後高田様、御逝去ニ付、今日ヨリ七日之間、鳴物御停止被仰付候

〔三九一〕

中之丸様、今月八日御逝去被為成候間、町中鳴物以下相止、諸事五日之内相慎可申旨可被触之候 以上

延宝元丑年 六月十五日

年 寄 中

番 所

町代中

〔三九二〕

延宝六年六月十五日

女院様崩御

十六日ヨリ鳴物音曲普請等停止被仰付候、廿六日御葬礼、七月十六日諸事御免 日数三十日

〔三九三〕

延宝八申年五月八日

藏有院様御他界、五月十一日ヨリ鳴物音曲普請等停止被仰付候、五月廿日簾かけ候儀御免、六月十四日ヨリ普請すと見ニ出候御免、六月晦日鳴物御免、日数五十日

但シ木辻町商三日停止、石細工モ止

〔三九四〕

延宝八申年八月十八日

法皇様崩御 後水尾院

廿三日町中鳴物停止、廿六日御免被成候、日数三日

〔三九五〕

天和三亥年閏五月廿八日 徳松様御逝去

六月四日ヨリ鳴物音曲普請停止、六月十五日ヨリ普請御免

七月九日鳴物御免、日数三十五日

木辻町商二日御留被成候

〔三九六〕

若君様御不例、不被為相叶御養生、先月廿八日被遊御逝去候、依之銘々寺下百姓抔、音曲鳴物等可被停止之旨、為其如此ニ候以上

亥六月四日

大岡勘右衛門

十三ヶ寺 十七ヶ寺 十九ヶ寺

〔三九七〕

若君様御不例、不被為相叶御養生、先月廿八日被遊御逝去候、依之銘々音曲鳴物等可為停止之候、為其如此候 以上

亥六月四日

同

社家中 祢宜中 衆人 衆徒

興福寺五師役者 口上書一通 東大寺年預へ同断

八ヶ村庄屋年寄御番所へよひよせ何も立合、右之趣よミきかせ、村中ニ而諸事穩便ニ仕候様ニと申渡候

〔三九八〕

六月四日、町年寄石井九郎兵衛清水源藏徳田勘兵衛并町代ニ被仰渡候へ、音曲鳴物抔御停止被成候、みせをかさり、ほしすたれをかけ、商いたし候とも、大勢寄合不申、穩便ニ可仕候、并普請抔仕候儀も相止可申候、右之趣、早々町中へ相ふれ候様ニ被仰渡候、同月五日鳴川町木辻町之傾城商之儀、二日斗遠慮可仕由、惣年寄之九郎兵衛源藏勘兵衛三人ニ被御渡候

是へ惣年寄三人たしはくつわとも申候

〔三九九〕

嚴有院様御他界之節、傾城之商三日遠慮仕候、此度も商やめ可申由申上、依之被仰出候事

亥六月五日

〔四〇〇〕

鳴物祭礼次ニ普請等之事、最早相触といへとも、從江戸御赦免之段申来候間可被其意候 以上

六月十四日

十九ヶ寺 十七ヶ寺 十三ヶ寺

円照寺御所 興福寺 東大寺 衆徒 社家 祢宜

町中

〔四〇一〕

新院様、去ル廿二日、薨御被遊ニ付、廿三日より同廿七日迄、都合日数五日之積、銘々寺下迄、音曲鳴物杯可為停止候、為其如此
ニ候

貞享二巳年 二月廿四日

興福寺 東大寺 十三ヶ寺 十八ヶ寺 廿一ヶ寺 社家 祢宜 衆人 衆徒 八ヶ村 町中

大岡勘右衛門

〔四〇二〕

今度堀田筑前守殿、御死去ニ付、音曲鳴物日数五日可為停止者也

天和三亥年 九月八日

江戸ヨリ右之通、昨今申来候間、今日より十二日迄書付之通、可有之

興福寺 東大寺 十三ヶ寺 十七ヶ寺 廿一ヶ寺 八ヶ村 町かた

[四〇三]

円照寺様薨去被為遊候ニ付、今日より廿三日迄五日之内、鳴物音曲可為停止者也

元禄十丑年 正月十九日

妻木彦右衛門

興福寺 東大寺 十三ヶ寺 十八ヶ寺 廿一ヶ寺 社家 祢宜 衆徒 楽人 町方 法華寺殿

薨去ハ正月十三日ナルモ御披露無之、十九日ニ植村杏広御番所へ告来

[四〇四]

仙洞之力宮、一昨廿二日薨去、依之今廿四日明廿五日之夜迄、鳴物音曲普請等令停止之由、奈良町中并興福寺東大寺も可申渡候

丑十月廿四日

[四〇五]

当今二之宮様、薨去被遊候付、今明日鳴物音曲可為停止旨被仰出候、急度相守可申也

元禄十一戊寅 六月廿八日

右、二之宮様薨去ノ儀、京町奉行ヨリ不申来候、五師役者今日ノ礼ニ不参、以文玄関え断ニ右之事申来ル、御奉行彦右衛門殿一乗院殿今日之御礼ニ御越被成候而、委細被聞届候、右之御ふれ御番所へ惣年寄三人よひ被成候て、町かた斗ふれさせ候様ニこの事也

内侍原刑部卿え尋遣候処、二之宮ノ御母堂ハ櫛笥殿御息女勾当内侍ニテ、則長橋局御務ノヨシ、二ノ宮御年三歳

[四〇六]

喜知姫君様御違例之處、御養生不相叶。去七日ノ曉御逝去被遊候、依之今十二日ヨリ三日、鳴物音曲普請等堅可有停止候者也

寅七月十二日

妻木彦右衛門

興福寺 東大寺 十三ヶ寺 十八ヶ寺 廿一ヶ寺 社家 祢宜 衆徒 衆人 円照寺御所 法華寺殿 町方

喜知姫君様ハ尾張中納言綱誠卿御息女、元禄十一戊寅年三月十八日綱誠卿亭へ御成之節、御姫君様ニ御養被為遊、同年四月朔日ニ御城へ被為入候、今年三歳

七月七日ノ曉御逝去、依之七日八日九日、此三日鳴物万事停止、然レハ六日ノ曉ナルヘキカ

〔四〇七〕

千代姫君様御違例之處、不被為叶御養生、去ル十日之夜被為遊御逝去候、因茲音曲鳴物普請等可為停止候 以上

寅十二月十七日

妻木彦右衛門

御ふれ所、如例十三ヶ所

〔四〇八〕

千代姫君様御逝去ニ付、普請之儀停止被成候得とも、其段御免ニ候、音曲鳴物之儀ハ追而御免可被成候間左様ニ可被相心得候 以上

寅極月十九日

南都 番所

右ふれ所同断

〔四〇九〕

千代姫君様御逝去ニ付、鳴物音曲停止之所、今日より御免候間、左様可相心得候 以上

寅十二月廿三日

番所

右ふれ所如例

〔四一〇〕

尾張中納言殿、御病氣之処、御養生不相叶、当五日被成御逝去候、依之鳴物音曲普請等、今日より十六日迄七日之内堅可為停止候以上

元禄十二卯年六月十日

内伝左衛門

十三ヶ所

〔四一一〕

尾張中納言殿御逝去ニ付、鳴物音曲普請等来ル十六日迄七日之停止之旨、最前相触候得とも、普請之儀者今日より勝手次第ニ可被致候以上

卯六月十三日

南都 番所

十三ヶ所

〔四一二〕

有栖川宮、去ル廿五日 薨去ニ付、今廿八日明廿九日両日、鳴物音曲令停止者也

卯七月廿八日

内伝左衛門

十三ヶ所

〔四一三〕

本庄因幡守殿、当月十六日之夜死去、依之廿六日より来ル廿八日迄三日之間、鳴物令停止之、但普請等ハ可為勝手次第候 以上

八月廿六日

内伝左衛門

十三ヶ所

〔四一四〕

戸田山城守、病氣之所、養生不叶、当月十日死去、依之今十七日より来ル十九日迄三日之間鳴物停止申付候、普請者不苦候 以上

九月十七日

内伝左衛門

十三ヶ所

〔四一五〕

常修院宮、去ル朔日薨去ニ付、今七日明八日両日鳴物音曲令停止者也

卯十二月七日

番所

十三ヶ所

右ハ京都町奉行所々五日之日付ニテ、宮様薨去ニ付二日三日四日都合三日、鳴物音曲停止ニ被仰付候由、此節伝左衛門殿御上京ニテ御留守ニ付、飯塚弥兵衛并与力相談之上、右之通相触申候 以上

〔四一六〕

鷹司前殿下、就薨去、今十三日より明十四日之夜迄二日之間、鳴物令停止之候、但シ普請抔者不苦候間、可為勝手次第候 以上

元禄十三辰 正月十三日

十三ヶ所

〔四一七〕

尾張大納言殿、去ル十六日御逝去、依之鳴物音曲令停止候、日数之儀、追而相触候迄、其旨可被相心得者也

辰十月廿一日

妻彦右衛門

如例十三ヶ所相ふれ候

〔四一八〕

尾張大納言殿就御逝去、鳴物音曲令停止候処、今日より致赦免候間此旨可相心得候 以上

辰十月廿六日

如例十三ヶ所

妻彦右衛門

〔四一九〕

水戸中納言殿、御病氣之処、御養生不相叶、去ル六日ニ御逝去被遊候、因茲来ル十九日迄鳴物音曲令停止者也

十二月十四日

如例十三ヶ所御ふれ候

妻彦右衛門

〔四二〇〕

大乗院御門跡、昨二日御遷化被遊候、依之来ル七日迄鳴物音曲令停止者也

元禄十四巳五月三日

十二所

妻彦右衛門

〔四二一〕

勧修寺御門跡、昨二日薨去被遊候ニ付、今日より五日迄三日之間、音曲鳴物令停止候、為其如此候 以上

巳十二月三日

十三ヶ所

〔四二二〕

廿六日巳ノ刻薨去

品宮様薨御被遊候、依之今日より三日、鳴物音曲令停止者也

元禄十五年八月廿八日

十三ヶ所

妻彦右衛門

〔四二三〕

円照寺御所藤宮様、薨去被遊候ニ付、今日より廿七日迄三日之間、音曲鳴物可為停止候、為其如此候 以上

午十月廿五日

妻彦右衛門

十二ヶ所 藤宮様十月廿三日薨去

〔四二四〕

鶴姫君様、御違例之處、御養生不被為叶、去ル十二日之夜、被遊御逝去候、依之鳴物音曲重而左右有之迄可為停止者也

宝永元年申年四月十八日

妻彦右衛門

十三所ふれ

鶴姫君様御違例之處、俄ニ御差重被遊、御養生不被為叶、去十二日之夜御逝去被遊候由、奉絶言語候、

公方様御機嫌被為候儀無御座旨申来候、此段為可申達如此候 以上

四月十八日

妻木彦右衛門

東大寺年預役者中 興福寺五師役者中

右双所へ差遣ふれニと奥ヨリ相認候を同心ニもたせ遣候

〔四二五〕

昨日触落候普請之儀ハ、左右有之迄可停止者也

四月十九日

右十三ヶ所へふれ遣

〔四二六〕

普請之儀、今日より指免候、鳴物音曲之儀者重而相触迄可為停止者也

四月廿一日

右十三ヶ所へ触遣候

〔四二七〕

鶴姫君様御逝去ニ付、鳴物音曲停止之處、明廿七日より御赦免候間可被得其意候 以上

四月廿六日

右十三ヶ所へ触遣候

日数九日

〔四二八〕

阿部豊後守殿御病氣之處、不相叶養生、去ル十七日被成御卒去候、依之今廿四日ハ廿六日迄、鳴物令停止候、普請ハ構無之候 以上

九月廿四日

如例十三ヶ所ふれ

妻彦右衛門

〔四二九〕

紀伊中納言殿、御病氣之处、御養生不被為相叶、去十四日御逝去被遊候、依之鳴物音曲今日ヨリ来ル廿四日迄七日之間可為停止、但普請等者不苦候 以上

酉五月十八日

番所

如例十三ヶ所へ相ふれ候

彦右衛門殿御上府、御留守故、京都町奉行安藤駿河守殿ヨリ被差越候御状文言

紀伊中納言殿、去ル十四日御逝去ニ付、昨十六日ヨリ来ル廿一日迄、此元鳴物音曲御停止ニ候、普請坏者御構無之候間、可被得其意候、此段我坏方ヨリ相違旨紀伊守殿被伝候 以上

五月十七日

安藤駿河守

妻木彦右衛門殿 御留守居中

〔四三〇〕

一位様御不例、御養生不被為叶、去ル廿二日薨去被為遊候ニ付、鳴物音曲普請等重而左右有之候迄可為停止者也

酉 六月廿八日

番所

如例十三ヶ所へ相ふれ候

京都町御奉行安藤駿河守殿ヨリ留守居中へ

一位様御違例、御養生不被為叶、去廿二日薨去ニ付、鳴物普請停止被仰付候間可被得其意候、日数之儀者未不知候、此段我坏方ヨリ紀伊守殿被伝候 以上

六月廿七日

安藤駿河守

妻木彦右衛門殿 御留守居中

〔四三二〕

一位様薨去ニ付、先達而触候普請之儀、今日ヨリ御赦免之事候、鳴物音曲者重而相触候迄可為停止者也

西七月七日

番所

右十三ヶ所へふれ申候

京都町御奉行安藤駿河守殿ヨリ留守居中へ

先日鳴物并普請停止之旨申達候處、普請之儀、去月廿九日江戸表御免ニ而候、鳴物者未御免無之旨、今朝繼飛脚ニ申来候ニ付、当表も其趣申触候、於其許にも被得其意可被申触候、此段我抔方々相達候様ニ、紀伊守殿御差図ニ付如此候 以上

西七月七日

安藤駿河守

妻木彦右衛門殿 御留守居中

〔四三三〕

鳴物音曲御停止之處、今日ヨリ御赦免之事候間可被得其意候 以上

西七月十七日

番所

如例十三ヶ所へふれ遣候

京都町御奉行安藤駿河守殿ヨリ留守居中へ

鳴物御停止之儀、江戸表去ル八日より御赦免ニ付、当表も今日ヨリ差免申候、於其許も被得其意可被申触候、此段我等方々相達候様紀伊守殿御差図ニ付如此候 以上

七月十六日

安藤駿河守

妻木彦右衛門殿 御留守居中

〔四三三〕

徳川対山殿御病氣御養生不被為相叶、去ル八日御逝去被遊候、依之鳴物音曲今日より来十八日迄、七日之間可為停止候、但普請ハ不苦候 以上

酉八月十二日

番所

如例十三ヶ所

徳川対山殿御病氣御養生不相叶、去八日御逝去ニ付、此表鳴物七日停止ニ候、普請等は御構無之候間可被得其意、其元も可被申触候、此段我等方々相達候様ニ紀伊守殿御差図ニ付如此候 以上

八月十一日

安藤駿河守

妻木彦右衛門殿 御留守居中

〔四三四〕

徳川内蔵頭殿御逝去ニ付、鳴物音曲来ル廿八日迄可為停止者也

酉九月廿二日

番所

如例十三ヶ所

○曾根友右衛門ヨリ九月十五日之書狀、同月廿一日に出来、徳川内蔵頭様御逝去ニ付、江戸表鳴物七日間御停止ニ候、右之通相考、寺社町方へ例之通相ふれ候様ニと申来候、普請ハ昨今御停止候

徳川内蔵頭殿御病氣御養生不相叶、去ル八日ニ御逝去候得とも、禁裡御神事彼是相障ニ付、此表今日より廿六日迄、鳴物御停止、普請坏は構無之候、其許ハ鳴物停止三日斗ニても苦かるましく思召候、只今迄於其元、輕キ鳴物停止之格式も候ハ、其趣准可被申触候、右之段我坏々相達候様ニ紀伊守殿御差図ニ付如此候 以上

酉九月廿二日

安藤駿河守

妻木彦右衛門殿 御留守居中

〔四三五〕

一乗院御門跡、昨七日御遷化被遊、依之来ル十四日迄鳴物音曲停止者也

戊七月八日

妻彦右衛門

如例十三ヶ所へ

〔四三六〕

円照寺宮様薨去被遊ニ付、今日ヨリ三日之間音曲鳴物杯可為停止候、為其如此候 以上

戊九月廿三日

〔四三七〕

公方様御不例不被為叶御養生、去ル十日薨御被遊候、依之鳴物音曲普請杯可為停止、尤知行所へも可被相触者也

丑正月十四日 寅ノ下刻

三勘之丞

十三ヶ所へ御ふれ 十五日ノ朝御ふれ状差遣候

宝永六丑年正月十四日丑ノ下刻、与力不殘御前へ被召出□□御意候へ、江戸へ御□書出来、公方様御癩疹輕ク被為遊候處、俄ニ御氣色相重リ、去ル十日薨御被遊候段申来間、鳴物音曲普請杯停止致候様ニ例之通、寺社町方へ相触可申旨、被仰渡候ニ付、廻文杯認、早速差遣候

敝有院様薨御被遊候節之通、木辻町商三日致停止、尤町方商仕候へ、簾を掛、穩便ニ致昼夜自身番仕候様ニ御意ニ付、則惣年寄町代え申渡相触させ候

〔四三八〕

菊池門大夫を以被仰遣候へ、京都兩町奉行衆を被遣候にて御状之写

以手紙致敬上候、此度当表普請停止申付置候所、町々木戸普請并仕掛候門造作、葺掛置候屋祢普請ハ密ニ可仕候、尤新規之普請ハ仕間敷之旨可申付由、今朝松紀伊守殿被仰聞候、其旨町中へ相触申候、右之段其元へも拙者共申達候様ニと被仰候ニ付如此御座候 以上

二月五日

安藤駿河守

中根撰津守

三好勘之丞様

右之通町方へ相触候様ニと被仰出候付、早刻惣年寄町代へ申付相触させ候

普請停止ニ申付候処、町々木戸普請并仕掛候門造作、葺掛置候屋祢普請は密ニ可仕候、尤新規之普請ハ仕間敷候、右之通可相心得者也

丑二月七日

惣年寄

町代

〔四三九〕

先達而相触候普請御停止之儀、今日より御赦免候間、早々得其意者也

丑二月十七日

興福寺 五師 役者中

三勘之丞

〔四四〇〕

鳴物停止之儀、先達而相触候四条河原芝居并其外鳴物渡世ニ致候ものゝ分、明七日より御赦免候事
但遊興之鳴物ハ先可相慎候

右之旨洛中洛外へ可触知者也

丑三月六日

右之通京都兩御奉行衆を書付被差越候間、町中相ふれ候様ニ被仰出、則惣年寄町代へ申渡し相触させ申候 以上
丑三月八日

〔四四一〕

与力中ヶ間不殘御前へ被為召出、御直ニ被仰渡候へ、町中自身番之儀、今夜より無用ニ仕候様ニ惣年寄へ申渡候様ニと被仰渡、則惣年寄町代へ申渡、町中触させ申候
丑三月十二日

〔四四二〕

遊興之鳴物音曲之儀、向後御免被成候間可被得其意候 以上

丑四月七日

三勘丞

興福寺 五師

役者 中

〔四四三〕

公方様御不例、不被為相叶御養生、去ル十四日之曉薨御被遊候、依之鳴物音曲普請等可為停止者也

十月十九日

美作守

奈良惣年寄

町代

〔四四四〕

水戸中將殿御病氣之處、不相叶御養生、去ル十二日御逝去被成候、依之今日より来ル廿一日迄、鳴物音曲令停止候、尤普請之儀ハ差構無之候 以上

丑十月十八日

三備前守

如例十三ヶ所ふれ

(以上「聽中漫錄二三 和州志触事二」完)